

## 離任ご挨拶

この度人事異動により、北マケドニアに異動することになり、10月2日、ルアンダを離任致しました。在任中皆様から色々のご指導、ご支援をいただき、また、様々な機会を通じて親交を深めさせていただき誠に有難うございました。

3年9ヶ月に亘る勤務では、アンゴラにおける様々な歴史的瞬間に立ち会うことができました。中でも、2017年、民主的、平和的かつ透明な選挙により37年ぶりに政権が交代、その後、ロウレンソ新大統領の指導の下で政治的、経済的、社会的改革と刷新に取り組む「新時代のアンゴラ」との間で、日本との関係強化に取り組みました。同大統領は2019年8月横浜におけるTICAD7にアンゴラの大統領として初めて出席し、これは、日アンゴラ関係の新たな幕開けを象徴する記念すべき訪日となりました。

また、同年3月、アンゴラ政府が地デジ日本方式採用を決定、5月、河野大臣が外務大臣として17年ぶりにアンゴラを訪問、7月、私の故郷熊本県玉名市が東京オリンピックにおいてアンゴラ女子ハンドボールチームのホストタウンとなることが決定、10月には、長年の懸案であった技術協力協定が締結されました。

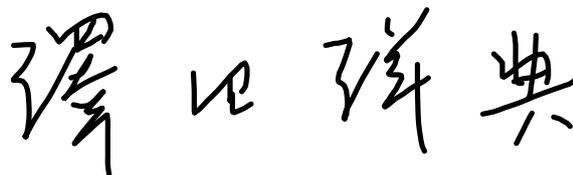
皆様におかれましては、勤務環境の厳しいルアンダにおいて、また、遠路日本、南アフリカ等の近隣国、英国、フランス、ポルトガル、ブラジルなどから度々アンゴラに足をお運びいただき、大きな可能性を秘めたアンゴラに注目し、貿易・金融、経済・技術協力、社会貢献、文化・スポーツ交流などの様々なプロジェクトやプログラムの形成と実施に尽力されていることに深い敬意と感謝を申し上げます。

お陰様で過去数年の間、両国間では農業、職業訓練、医療、教育、地雷除去、繊維工場、海底ケーブル、デジタルテレビ、通信、電力、水、石油、港湾インフラ、文化スポーツなど実に幅広い分野において経済交流、資金協力、質の高い技術移転、人材育成、人材交流、相互理解が大きく進展し、日本がアンゴラの社会経済発展、経済の多角化、人間の安全保障などに貢献すると共に、その結果、アンゴラにおける日本のプレゼンスが大いに高まっていることを大変誇りに感じております。

私の後任として、丸橋次郎大使が今月下旬には着任する予定です。丸橋大使は、ポルトガル、ブラジル、モザンビークなどポルトガル語圏での経験が豊富です。私同様これからもご支援とご協力をいただき、今後も両国関係が更なる発展を遂げるよう祈念しております。

末筆ながら、皆様の今後益々のご健康とご活躍をお祈りいたします。

在アンゴラ大使



令和2年10月